

横浜ユーラシア文化館 夏の特別展 Special Exhibition

天理大学創立90周年記念巡回展

ギリシア考古学の父 シュリーマン —初公開！ティリンス遺跡原画の全貌—

Special Exhibition at the Yokohama Museum of EurAsian Cultures

Commemorating the 90th Anniversary of the Foundation of Tenri University

"Father of Archaeology, Heinrich Schliemann:

The First Exhibition of Tiryns Original Paintings"

2016年7月16日(土)～9月4日(日)

Saturday 16 July to Sunday 4 September 2016

青年実業家・世界漫遊家・考古学の父として世界に名高いハインリヒ・シュリーマン。彼が情熱を傾けたティリンス遺跡の原画、ギリシアやエジプトの古代遺物、シュリーマン直筆の手紙、トロイ発掘の報告書初版など、天理参考館・天理図書館所蔵の貴重な資料約130点を展示します。本展初となるシュリーマン幕末来日時の直筆日記も紹介します。



赤像式渦形クラテル 前4世紀頃
イタリア・アブリア地方 天理参考館
Red-Figure Krater, Italy, 4th century B.C.E.
H.48.0 cm
Tenri University Sankokan Museum

会場 3階企画展示室ほか
Thematic Exhibition Gallery
観覧料 一般300円、小・中学生150円
Admission: ¥300 for Adults,
¥150 for primary and junior high school students

横浜ユーラシア文化館

Yokohama Museum of EurAsian Cultures

〒231-0021 横浜市中区日本大通12

Tel. 045-663-2424 Fax. 045-663-2453

開館時間 9:30 a.m. ~ 5:00 p.m. (券売は4:30 p.m.まで)
企画展・特別展開催中の水曜日は7:00 p.m.まで開館時間を延長いたします。(券売は6:30 p.m.まで)

休館日 毎週月曜日(月曜日が祝日の場合は次の平日)
年末年始(12月28日～1月3日)他
2016年7月15日(金)は、展示替えのため休館します。

観覧料 一般200円、小・中学生100円
特別展・企画展開催時は料金が変更になることがあります。
毎週土曜日は、小・中学生、高校生無料
「障害者手帳」、横浜市の「子どもカード」等をお持ちの方には、入館料の減免制度がありますのでお尋ね下さい。



<http://www.eurasia.city.yokohama.jp/>

News from EurAsia No. 25 横浜ユーラシア文化館ニュース 第25号 2016年7月16日

企画・編集・発行/横浜ユーラシア文化館 デザイン/竹下秀未 レイアウト/長瀬雅子 印刷製本/株式会社佐藤印刷所

表紙: Diary A6 American School of Classical Studies at Athens, Gennadius Library Archives, Heinrich Schliemann Papers.

禁無断転載 ©2016 Yokohama Museum of EurAsian Cultures

News from EurAsia

横浜ユーラシア文化館ニュース

アートウォッチング
Art Watching

横浜ユーラシア文化館 夏の特別展 天理大学創立90周年記念巡回展

ギリシア考古学の父 シュリーマン —初公開！ティリンス遺跡原画の全貌—

Special Exhibition at the Yokohama Museum of EurAsian Cultures
Commemorating the 90th Anniversary of the Foundation of Tenri University
"Father of Archaeology, Heinrich Schliemann: The First Exhibition of Tiryns Original Paintings"

ギャラリートーク
Gallery Talk

エジプト・フスタート遺跡と様々な出土遺物

Various Artifacts Excavated in al-Fustat, Egypt

蔵品紹介 - 常設展示室から -
The YMEAC Collection: From the Permanent Exhibition

馬形銜留め具付き銜 Horse Bit with Horse-Shaped Cheek Pieces

催し物案内
Exhibitions and Events

No.25

横浜ユーラシア文化館

Yokohama Museum of EurAsian Cultures

Art Watching

横浜ユーラシア文化館 夏の特別展 天理大学創立90周年記念巡回展

ギリシア考古学の父 シュリーマン

—初公開！ティリンス遺跡原画の全貌—

Special Exhibition at the Yokohama Museum of EurAsian Cultures
Commemorating the 90th Anniversary of the Foundation of Tenri University
“Father of Archaeology, Heinrich Schliemann: The First Exhibition of Tiryns Original Paintings”

福原庸子 Yasuko Fukuhara

この展覧会は、2015年がハインリヒ・シュリーマン(Heinrich Schliemann 1822-1890)の来日(1865)から150年、シュリーマンがギリシアのティリンス遺跡発掘報告書を発刊して130年、そして天理大学創立90周年という節目の年に当たることから、同年春に天理大学附属天理参考館で開幕した巡回展です。横浜ユーラシア文化館では、夏の特別展として開催します。

ティリンス遺跡の原画

実業家、世界漫遊家、考古学の父として知られるシュリーマンの再評価を目的とする本展において、先ず注目していただきたいのは天理参考館所蔵のティリンス遺跡原画です。ティリンスは、ユネスコ世界遺産に登録されているミケーネ文明（紀元前16～13世紀）の遺跡で、ギリシア・ペロポネソス半島のアルゴス湾東岸に位置する丘の上に建造された大規模な宮殿の遺構です。シュリーマンが1884年に発見し、翌年には発掘報告書を発刊しています。宝物探しのような発掘が横行していた当時、科学的な報告書を出版すること自体が画期的であり、さらに、現場で正確に図面化された遺構や遺物の彩色図版を伴うシュリーマンの報告書は、広く世界に知られることとなりました。天理参考館が所蔵する原画とは、出版の準備段階で専門画家に作成させた手描きの図版原稿であり、

シュリーマン来日の記録 —現存する直筆日記—

1865年6月3日(慶應元年五月十日)午後
10時近く、上海からシュリーマンらヨーロッパ
人を乗せた蒸気船ペキン号が横浜港に錨を下
ろします。シュリーマンは、世界の色々な国で
出会った旅行者たちが皆日本のこと熱く語る
のを聞いており、強い憧れを抱いて来日しました。翌6月4日から約1ヶ月間日本に滞在した
シュリーマンは、横浜や江戸を訪れた際の詳細
な記録を自身初の著書となる旅行記 *La Chine et Le Japon Au Temps Présent* (Paris: Librairie Centrale, 1867) (以下『旅行記』)
として出版しています⁽¹⁾。19世紀後半は、交通
網の飛躍的な発達により欧米人の世界周遊旅



①ティリンス出土土器原画(図版XXIIIとXXIV)
1884-1885
42.8 cm × 30.5 cm
天理参考館

Tiryns Original Painting for Plates XXIII and XXIV
1884-1885
42.8 cm x 30.5 cm
Tenri University Sankokan Museum

行がより身近になった時代であり、若くして巨万の富を築いた貿易商シュリーマンは、40代で世界漫遊の好機を捉えたといえましょう。

シュリーマンのように外交官でも軍人でもない一旅行者が江戸を見物できたのには、横浜在住のドイツ人商人との交わりや、在日米国公使館からの特別な計らいがあったことが『旅行記』からわかります。また、攘夷派による外国人襲撃事件が相次ぐ時期の来日であったため、シュリーマンは厳重な警護に辟易していますが、庶民からは気さくに「おはよ」「さいなら」と声をかけられるなどして、日本人の気質や風俗習慣に好印象を持っています。

ところで、『旅行記』の元となったシュリーマン直筆原稿の存在、保管場所や状態などについては、これまで特に言及されてきませんでした。筆者は、「考古学の父 シュリーマン」展の横浜開催に向け、日本とシュリーマンを繋ぐ資料の有無を調査する段階で、彼が残した日記や手紙、帳票類や契約書など膨大な資料が、ギリシアのアテネ米国古典学研究所(American School of Classical Studies at Athens、以下ASCSA)に残されていることを、同研究所のウェブサイトで確認しました。それらは、同研究所のアーカイブスGennadius Library ArchivesにHeinrich Schliemann Papers(シュリーマン文書)として保管されていますが、中でも日記類は今世紀に入ってからデジタル化され、シュリーマン直筆の全ページの画像をASCSAのウェブサイトで閲覧できるようになっています。日記はシュリーマンが1864年から1865年にかけて世界旅行をした際にドイツ語、フランス語、英語などで記されており、彼の滞在地別に分類されたDiary A1からDiary A18の内、日本に関するものはDiary A6(②)とDiary A7(③)です^{②)}。

*La Chine et Le Japon Au Temps Présent*と照合すると、Diary A7はその内容がほぼ一致することと、冒頭に編集者に宛てた語句が記されていることから、出版用の直筆原稿にあたる

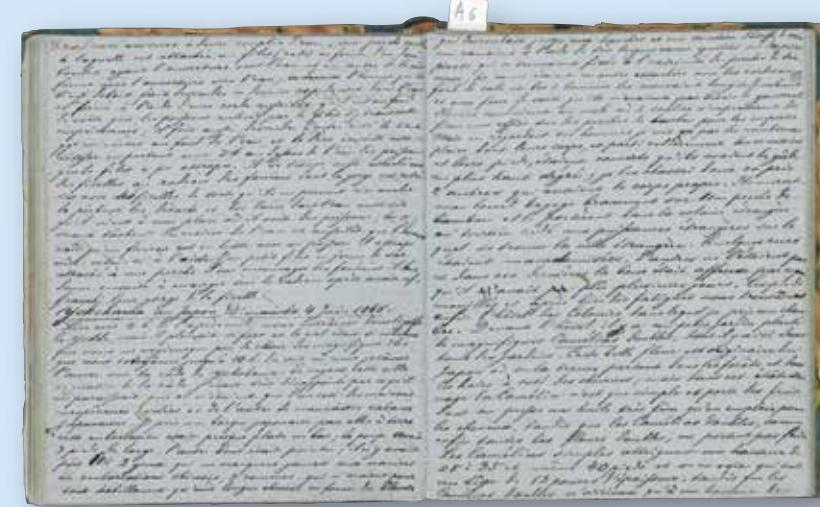
と思われます。Diary A6は日付入りで小まめに書かれた日本滞在中の備忘録で、Diary A7が世界漫遊記を待つ愛読者を意識した内容・構成にまとめられているのに比べ、より「生」な情報を伝える内容となっています。Diary A6については、翻訳作業をはじめ、更なる研究を計画しています。

シュリーマン自身が構築したアーカイブであるシュリーマン文書が、一括してASCSAの所蔵となり整理公開が格段に進んだ現在、シュリーマンの今日的評価のみならず、彼が訪問した国々の19世紀社会史の研究にも、学際的かつ国際的な活用が期待されます。

(1) 石井和子訳『シュリーマン旅行記 清国・日本』講談社学術文庫、1998年。

(2) 在アテネ米国古典学研究所のナタリア・ブローガン博士には、Diary A6、Diary A7のデジタル画像の掲載および今後の調査に対するご理解ご協力を頂きました。ここに謝意を表します。

Heinrich Schliemann (1822-1890), a German merchant, world traveler, self-taught polyglot and a pioneer archaeologist, was a man of great determination and enthusiasm. This exhibition aims to shed light on Schliemann, who made significant contribution to the development of Greek archaeology through his discovery of Tiryns, and on his powers of observation as a world traveler through his diaries kept during his journey to Japan in 1865, which he signed "Henry Schliemann."¹ The original Tiryns paintings with Schliemann's own editorial notes owned by the Tenri University Sankokan Museum (①) are the featured exhibit, and the Diaries A6 (②) and A7 (③), introduced for the first time in Japan through digitized images, are the flagship among archival collections housed in the American School of Classical Studies at



②シュリーマン来日時の直筆日記 Diary A6 (1865) 各ページ each page 20.0 cm×16.5 cm
American School of Classical Studies at Athens, Gennadius Library Archives, Heinrich Schliemann Papers.



③シュリーマン旅行記の直筆原稿 Diary A7 (1865) 各ページ each page 28.0 cm×21.5 cm
American School of Classical Studies at Athens, Gennadius Library Archives, Heinrich Schliemann Papers.

Athens. These are of immense importance in conducting unbiased reexamination of Schliemann's life and achievements.

1. American School of Classical Studies at Athens, Gennadius Library Archives, Heinrich Schliemann Papers. On behalf of the Yokohama Museum of EurAsian Cultures, the author extends her sincere gratitude to Dr. Natalia Vogeikoff-Brogan for advice and encouragement regarding the introduction of Diaries A6 and A7 for the Museum's guests.

エジプト・フスタート遺跡と 様々な出土遺物

Various Artifacts Excavated
in al-Fustāt, Egypt

竹田多麻子 Tamako Takeda

料理に使った土鍋、色鮮やかな陶器、光輝くガラス瓶、中国から海を渡ってきた磁器、かわいらしい装身具。ここに紹介する様々な生活道具は、7~14世紀のエジプトで人々が実際に生活で使っていた容器や道具などです。私たちの日常生活になじみのあるものもあれば、デザインや色使いに新鮮さを感じるものもあります。

これらの遺物は、カイロ市南部のオールドカイロ地区に広がるフスタート遺跡から発見されました。フスタートは、アラブ軍がビザンツ帝国領であったエジプトを征服した翌年の642年に建設されたエジプト最初のイスラーム都市です。廃墟となったフスタート遺跡では、現在、再開発が進められ、往時をしのぶことも難しくなってきています。これらの遺物が使われていた当時に戻ることもできませんが、様々な遺物を通して人々が豊かな生活を営んでいたことを想像することができます。

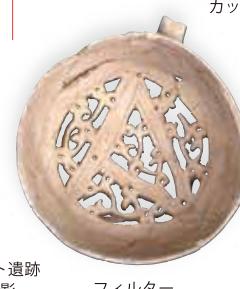
今秋開催する展覧会では、日本調査隊のフスタート遺跡発掘によって発見され、現在早稲田大学で所蔵されている貴重な遺物を幅広く展示し、その全容を紹介します。



フスタート遺跡
2009年撮影



カット装飾ガラス瓶



フィルター



エナメル彩ガラス



ブレスレット

There are various living tools, such as an earthen cooking pot, four fragments of pottery with vivid colors, a brilliant glass bottle, two fragments of Chinese porcelain, and attractive accessories. These tools were actually used from 7th to 14th century in Egypt. There are things we are familiar with in our daily lives, and we also feel freshness in the design and color.

They were discovered in the ruins of al-Fustāt, located in old Cairo, south of the present Cairo. It



鍋形土器



ラスター彩陶器



櫛



刻線陶器



紡錘車



オイル・ランプ



装身具



青磁



多彩釉陶器



マムルーク陶器



青白磁

早稲田大学蔵

was the first Islamic urban city constructed by the Muslim army in 642, after they defeated the Byzantines in Egypt. At present it is difficult for us to remember the past because it is in ruins. However, through these artifacts, we can imagine that people lived abundant lives there.

This fall, we are pleased to hold the exhibition about al-Fustāt, and introduce the artifacts excavated by a Japanese archaeological mission.

The YMEAC Collection: From the Permanent Exhibition

蔵品紹介－常設展示室から－

うま がた はみ ど ぐ つ はみ

馬形銜留め具付き銜

Horse Bit with Horse-Shaped Cheek Pieces

馬を制御するための道具です。水平方向の棒の部分を銜といい、これを馬に銜えさせます。馬の歯並びには隙間があるため、金属製でも歯を傷めずに口の中に収めることができます。銜の両端は互いに逆方向に丸められていて、これによって銜留め具が抜け落ちるのを防ぐと同時に、手綱を取り付ける場所にもなっています。銜留め具は、日本の馬具では鏡板と呼称され、銜と併せて轡とも呼ばれます。

この銜留め具は、馬の形をしています。馬の横向きの全身像がレリーフ状に表わされており、シンプルな造形にあって、大きなアーモンド形の目と優しげな口元が印象的です。内側すなわち頬に当たる面には、二個の小さな突起があります。頸の後ろと腰の上にある半環状のループに革紐などを通して、馬の頭部に装着したと考えられます。

今では錆びてくすんだ色をしていますが、製作

されたばかりの青銅器は、合金の割合により、金色や銀色あるいは赤銅色に輝いています。これを装着すると、大きな馬の両頬に小さな馬がきらめき、その姿は見る人々に強い印象を残したことでしょう。

銜がいつ頃から使われ始めたのかは明らかではありません。金属製の銜はおよそ3500年前には使われており、金属製品の作られる以前には有機物で作られた銜があったと推測されます。銜を使うことにより、人は馬の背から、あるいは馬に牽かせる車から、手綱を引くことで自らの意思を馬に伝えることができるようになりました。馬を制御する技術は、人に格段の機動力を与え、その行動範囲は一気に広がったと思われます。それはやがて遠い地域の人々との交流につながり、人類の歴史が大きく動いていくきっかけの一つになりました。

畠山禎 Tei Hatakeyama

Bronze
L. 19.5 cm H. 8.6 cm Depth 8.8 cm
Lorestan, Iran
Early 1st millennium B.C.E.



青銅
長19.5 cm 高8.6 cm 奥行8.8 cm
イラン ルリストン地方
紀元前第1千年紀前葉



A horse bit is used to control a horse. It is inserted in the mouth of the horse, and the rider or a driver pulls or tugs the reins fastened to the bit to direct the horse's movements.

This bit is composed of a rigid mouthpiece and two horse-shaped cheek pieces. The ends of the mouthpiece are curled in opposite directions probably for rein-rings. Each cheek piece is cast in the form of a walking horse with impressive almond-shaped eyes. There is a loop behind the horse's neck and another one is on the croup. These two loops were probably used to fit the bit to the horse head with straps. Two small pointed studs

are on the inside of each cheek piece.

Though this bronze bit is now rusted, it must have shone brightly when it was newly cast. A horse with shining small horses on each cheek must have created quite an impression on the people of those days.

Metal bits were already in use about 3500 years ago, and bits made of organic material were used in an earlier age. Humans gained remarkable mobility by controlling horses. It led to interactions between distant groups of people, and their movements made a major impact on human history.

企画展 3F

横浜ユーラシア文化館 夏の特別展 天理大学創立90周年記念巡回展

ギリシア考古学の父 シュリーマン
—初公開!ティリンス遺跡原画の全貌—

Special Exhibition at the Yokohama Museum of EurAsian Cultures
Commemorating the 90th Anniversary of the Foundation of Tenri University
"Father of Archaeology, Heinrich Schliemann: The First Exhibition of Tiryns Original Paintings"

2016年7月16日(土)~9月4日(日)

Saturday 16 July to Sunday 4 September 2016

考古学への夢を追い続けたハインリヒ・シュリーマンの生涯を振り返り、彼が発見したギリシア・ティリンス遺跡(ユネスコ世界遺産)の報告書原画、ギリシアやエジプトの古代遺物、そしてシュリーマン自身による著書の初版本や直筆書簡など、天理参考館・天理図書館所蔵の貴重な資料約130点を公開する巡回展。さらに、当館のオリジナル企画として、シュリーマンが待ち望んでいた来日時の直筆日記(1865年)と彼の日本旅行記の直筆原稿を初めてご紹介します。シュリーマンが綴った幕末の横浜・江戸の情景を、浮世絵や幕末写真も交えながらたどります。

会場 3階企画展示室ほか

Thematic Exhibition Gallery

観覧料 一般 300円 小・中学生 150円

Admission ¥300 for adults / ¥150 for primary and junior high school students



ティリンス宮殿壁画断片「牛の背で踊る男」原画
天理参考館
"Man Dancing on a Bull"
Tiryns Original Painting for Plate XIII.
33.9 cm x 49.0 cm
Tenri University Sankokan Museum

関連企画

ギャラリートーク

日時 7/17(日), 7/31(日), 8/14(日), 8/28(日)

担当学芸員

9/4(日)

翼 善信氏(天理参考館学芸員)

各回 14:00 ~ 30 分程度

参加費 企画展観覧料のみ

展示深読み講座

日時 7/27(水)

津本 英利氏(古代オリエント博物館研究員)

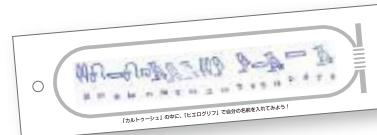
8/3(水)

吉崎 雅規氏(横浜市歴史博物館学芸員)

各回 18:00 ~ 45 分程度

会場 3階企画展示室

参加費 企画展観覧料のみ



ワークショップ

古代ギリシア・エジプトの民族衣装を着てみよう!

(協力:古代オリエント博物館)

日時 展示期間中の土・日・祝日 9:30 ~ 16:30

会場 1階図書コーナー

料金 無料

古代エジプトの文字ヒエログリフで名前を書こう!

日時 展示期間中の土・日・祝日 11:00 ~ 16:00

会場 1階ギャラリー

料金 無料(当日、1時間ごとに先着順で申し込み)



企画展 3F

エジプトのイスラーム都市を掘る

—日本調査隊によるスタート遺跡の発掘成果—

Digging up the First Islamic City Site in Egypt:
Archaeological Research at al-Fustat by the Japanese Mission

2016年9月17日(土)~10月10日(月・祝)

Saturday 17 September to Monday 10 October 2016

エジプトの首都カイロ市南部に位置するスタートは、7~14世紀に商工業や国際交易で繁栄したイスラーム都市です。1978年から日本の調査隊による発掘調査が行われ、土器、陶器、ガラス製品、中国陶磁等さまざまな遺物が出土しました。今回の展示では、これらの出土品を幅広く展示し、その全容を紹介します。

会場 3階企画展示室

Thematic Exhibition Gallery

観覧料 一般 300円 小・中学生 150円

Admission ¥300 for adults / ¥150 for primary and junior high school students

関連企画

ギャラリートーク

日時 9/18(日), 10/2(日)各回 14:00 ~

担当学芸員

9/22(木)11:00 ~

真道 洋子氏
(公益財団法人 東洋文庫研究員)

各回 30分程度

参加費 企画展観覧料のみ

関連講座

講師 長谷川奏氏

(早稲田大学総合研究機構客員教授)

真道 洋子氏

(公益財団法人 東洋文庫研究員)

日時 10/1(土)14:00 ~ 16:00

会場 1階ギャラリー

参加費 400円(企画展招待券付)

定員 30名(先着順)

イベント

ミュージアムで夏まつり Summer Events 入館無料

2016年8月11日(木・祝) Thursday 11 August 2016

今年の山の日は全館無料。モンゴル、韓国、インドなどユーラシア各国の民族衣装を試着できます。写真撮影もOK。缶バッジ作りや紙芝居など楽しいイベントいっぱい、皆様をお待ちしています。



カット装飾ガラス瓶 10~11世紀

早稲田大学蔵

Glass Bottle 10th-11th Century
Owned by Waseda University

ゲルに集まれ!「スホの白い馬」の世界へ Welcome to the Mongolian Ger!

公開期間: 2016年10月1日(土)~10日(月・祝)

Saturday 1 to Monday 10 October 2016

・ゲルの組立: 2016年10月1日(土) 9:40 ~ Saturday 1 October 2016

・ゲルの解体: 2016年10月10日(月・祝) 16:30 ~ Monday 10 October 2016



当館中庭にゲル(モンゴルの移動式住居)が登場!ゲルの中もご覧頂けます。ゲルの組立、解体作業の一部にはお客様も参加できます。どうぞご覧、ご参加下さい。

会場 中庭

観覧料 無料

時間 9:30~17:00

*初日は組立終了時から、10月10日(月・祝)は16:30まで内部公開。

*10月3日(月)は休館日のため、ゲルもお休み。

臨時休館のお知らせ

展示替えのため、2016年7月15日(金)常設展示室は休室いたします。

News from EurAsia No.25